

都市環境福祉常任委員会会議録

(令和7年12月15日)

※一部抜粋

交野市議会

都市環境福祉常任委員会

時 間

10:00～12:13

案 件 1. 付託議案審査について

議案第83号 交野市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定
について

議案第84号 交野市特定乳児等通園支援事業の運営に関する基準を定める条例の制定につ
いて

議案第89号 交野市営住宅設置及び管理条例の一部を改正する条例について

議案第90号 東部大阪都市計画星田西第1地区地区計画の区域内における建築物の制限に
関する条例の一部を改正する条例について

議案第91号 交野市水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例について

議案第92号 交野市火災予防条例の一部を改正する条例について

議案第93号 市道の廃止及び認定について

議案第98号 令和7年度交野市国民健康保険特別会計補正予算（第3号）について

議案第99号 令和7年度交野市後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号）について

議案第100号 令和7年度交野市水道事業会計補正予算（第3号）について

議案第101号 令和7年度交野市下水道事業会計補正予算（第3号）について

議案第107号 令和7年度交野市介護保険特別会計補正予算（第2号）について

議案第108号 令和7年度交野市後期高齢者医療特別会計補正予算（第4号）について

議案第109号 令和7年度交野市水道事業会計補正予算（第4号）について

2. 資料請求について

3. 所管事務調査について

交野市下水道事業経営戦略について

4. その他

出席委員（7名）

委員 長	中 谷 政 人	副 委 員 長	藤 田 茉 里
委 員	野 口 陽 輔	委 員	松 本 直 高
委 員	安 部 敬 子	委 員	堀 天 地
委 員	坂 本 顕		

説明のため出席した者の職氏名

市 長	山 本 景	副 市 長	良 幸 浩
副 市 長	山 添 学	理 事 兼	
危 機 管 理 監		都 市 ま ち づ くり	竹 内 一 生
		部 長	

理事兼 水道局長兼 上下水道統 準備室長	藤井大史	総務部長	阿佐正和
企画財政部長	苗村徹	市民部長兼 臨時特別給付金 推進室担当部長	小川暢子
健やか部長	島田国久	福祉部長兼 福祉事務所長	北井多栄子
消防長	山田健治	総務部次長	今堀祐児
市民部次長兼 臨時特別給付金 推進室長	菅和美	市民部次長兼 税務室長兼 税務室課長兼 臨時特別給付金 推進室担当次長	東田和成
健やか部次長兼 こども家庭室長	森山友美子	福祉部次長	藤原功
都市まちづくり 部次長	木村浩幸	都市まちづくり 部次長	林直希
水道局次長	伊藤雄一郎	水道局次長兼 上下水道統 準備室長代理	奥野忠
総務部 総務課長兼 消費生活 センター長	船戸貴彰	人事課長	植垣和貴
財務課長	厚主敏治	医療保険課長	堤下栄基
こども園課長	西田賢之	都市まちづくり 課長	古澤悠司
土木管理課長	土井章央	下水道課長	仲谷倫由
水道局 総務課長兼 総務係長兼 お客様サービス 係長	後藤秀也	工務課長	乾正義
浄水課長兼 浄水係長	加門高志	消防本部 総務課長	今西和義
予防課長	来間崇	総務部総務課長 代理	安永雄一
医療保険課長 代理	亀井香織	医療保険課長 代理兼 保健事業係長	村田奈美
こども園課長 代理	木下恭子	こども園課長 代理	大下明仁
都市まちづくり 課長代理	笠木健史	土木管理課長 代理	山下孝太郎

下水道課長代理	小林 康 一	工務課長代理	中西 崇 仁
予防課長代理兼 予防係長兼 警備1課長代理	齋 藤 覚	下水道課員	西 本 圭 佑
下水道課員	林 原 史 明		

職務のため出席した者の職氏名

事務局 長	中 村 健 一	局 次 長	大 湾 桂 子
係 長	竹 村 真 仁	係 員	松 井 彰 宏

～これ以前は、別案件のため省略～

1. 委員長（中谷政人） 次に、案件3の所管事務調査について、交野市下水道事業経営戦略についてを議題とします。

パブコメ実施前の計画素案について、理事者より説明願います。

1. 理事兼水道局長（藤井大史） すみません、本日は交野市下水道事業経営戦略に時間をいただきまして誠にありがとうございます。一定つくらせていただきまして、これからパブコメをする前の事前説明というところで、下水道課長のほうから、その概要につきまして説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

1. 委員長（中谷政人） 説明は着座にて結構です。

1. 下水道課長（仲谷倫由） それでは、すみません、交野市の下水道事業経営戦略でございます。こちらの素案のほうが出来上がりましたので、パブリックコメント実施は令和8年1月5日から令和8年2月4日までをパブリックコメントの予定とさせていただいておりますので、その前に、事前の説明という形で、本編のほうはページ数が非常に多いですので、概要版の素案のほうでご説明をさせていただけたらと思います。よろしいでしょうか。1枚物の概要版でご説明させていただきます。

まず、交野市下水道事業経営戦略というところで、令和8年度から17年度までの10年間の計画となっております。こちらのほうをご説明させていただきます。

まず、概要版の資料の左側の第1。

1. 委員長（中谷政人） 皆さん、資料はわかりますか。パブコメの横についています。パブコメの資料の次のページに概要版がついていきますので、ご覧ください。

どうぞ説明願います。

1. 下水道課長（仲谷倫由） すみません、資料の概要版でご説明させていただきます。

まず、第1、初めにというところで、まず本市の下水道事業におきましては、令和6年度末時点の普及率は97.7%となっております。行政人口のほとんどが汚水処理施設を利用できる状態となっております。

一方で、今後の人口減少の予測及び節水機器の普及等によりまして、使用料収入の減少、老朽化した下水道施設の更新・改築経費の増大が懸念されるなど、下水道事業を取り巻く経営環境につきましては、大きな局面を迎えてございます。

こうした中、経営の効率化と合理化を図り、事業を安定的かつ持続的に進めるために、今回、経営戦略のほうの策定を行ってございます。

次に、第2にいまして、交野市の下水道事業の概況といたしまして、まず、①事業の概要ですね。こちらにつきましては、下水道事業は、昭和43年度から事業着手しまして、現在12の処理区がございまして、

その下にいまして、②の下水道使用料の概要につきましては、現在、条例の使用料単価と有収水量から割り戻しました使用料の単価を参考に上げさせていただいております。

次にいまして、資料の右上になります。

組織の状況といたしましては、まず、本市における下水道事業は、今、下水道課で行ってございます。今後、より安定的かつ効率的な事業運営を図るため、地方公営企業の全部適用と水道事業の組織統合により体制強化を目指して、今後、事業のほうを進めてまいり

ます。

その下の第3の経営の現状と評価というところで、こちらにつきましては、経営に係る指標をこちらの表に上げさせていただいてございます。

まず、この上から経常収支比率、流動比率と順番に、この表の中に数値が入ってございますが、下から2段目の水洗化率までにつきましては、ちょうどこの表の右側のほうの評価というところで、青色で矢印がついてございますけれども、こちらにつきましては、青色の矢印の上向きについている指標につきましては、ほかの類似団体よりかはよい数値となっております。

ただ、一方で、一番下の老朽化管渠、老朽化率。こちらにつきましては、令和5年度で11.39%というところで、他団体では3%になってございますので、やはりこちらのほうは交野市、ほかの自治体よりかは管渠の老朽化が進んでいるということが表れてございます。

次に、第4の、左下になります。こちらをご覧くださいますと、純利益の推移を見ますと、令和6年度に2.9億円程度純利益がございしますが、令和13年度頃には赤字に転落する見込みというところが計画上出てございます。こちらの表に、ご覧いただきましたら、本計画の後半5年間の令和13年度から17年度は、やはり使用料の収入とか経費が年々増加しておりますので、経費回収率につきましても100%を下回る可能性がございします。

そういうことから、こちらの表をご覧くださいまして、下から3行目、当年度純利益というところが、令和13年度から三角で1、1、1とマイナス表記が出てございます。こちらにつきましては、先ほども申しました料金収入というところが、人口減少に伴って、やはり下がっていくという予測をしてございます。そういうところから、令和13年度につきましては、三角で1、単位が100万円なので、100万円ですけれども、この辺は人口減少が統計ほど下がない場合とか、さらには下水道の事業、今、未普及についても我々下水道課のほうで順次やっておりますので、思ったほど使用料の収入が減少しない場合につきましては、この三角の赤字のところが逆転する可能性もございしますけれども、あくまで統計上の人口推移を勘案しまして、使用料収入が下がってきますと、こういうような結果となっております。

次に、第5の経営課題につきましては、ストックマネジメント計画に基づいた点検調査の推進を令和元年度から継続しており、今後も施設全体のライフサイクルコストの低減を図っていきます。

次に、包括管理委託も令和3年度から継続しておりますので、今後、コストの増加の抑制にも努めてまいります。

もう一点、あと包括管理委託につきましては、今現在、令和9年度からのウオーターP P Pへの移行を検討してございますので、こちらのほうの検討も進めてまいります。

次に、②今後の財源についての検討状況というところは、令和13年度頃には汚水処理原価が基準となります150円に達する見込みであり、その後、使用料収入の単価が150円以下に下振れした場合には、経費回収率が100%を下回るというリスクがございします。

もう一点は、資金需要、突発的な支出に備えまして、現金預金残高としましては、常に5億円以上の維持をできるように目標としていきます。

その下の第6の経営戦略の事後検証と更新というところで、少なくとも5年ごとには投資財政計画の実績値を基に計画内容を見直しまして、次の改定は令和12年度には経営戦略を更新する予定となっております。

最後に、第7でございます。経営改善に向けた施策といたしまして、こちらは目標数値を上げさせていただいてまして、この表の普及率のところ、今現在は97.7%ですけれども、10年度先には98%を目指していく普及率を今、目標にさせていただいております。

あと、経常収支比率、経費回収率につきましては、こちらは100%以上を維持していくというところを目指していきます。

最後に、ストックマネジメント計画、包括管理委託による経費の節減を図っていくというところと、2点目につきましては、未普及対策によりまして、使用料の収入の増加も取り組んでまいります。

もう一点、令和11年度、投資財政計画見直しに際しまして、汚水処理原価と使用料単価のバランスを比較検証しますというところで、次の5年後は令和12年度ではございませぬけれども、10年、11年度ぐらいには投資財政計画の収支のバランスもチェックしていくような形で今後検証してまいりたいと思っております。

簡単ではございますが、以上でございます。

1. 委員長（中谷政人） 説明はお聞きの次第です。本件に関し、質疑等ありましたらどうぞ。

1. 委員（松本直高） もうお昼ですので、おはようございますじゃないですね。お疲れさまです。

ちょっと私のほうから確認をさせていただきたいんです。

第4、投資財政見直し、15ページからございます。まず、参考として原価計算表が示されているところなんですが、これは後のものと含めて、上下水道をがっちゃんした考え方でよろしいですか。

1. 下水道課長（仲谷倫由） こちらの投資財政の見込みにつきましては、下水道のみの計画となっております。

1. 委員（松本直高） ちょっと、これ、見方がよく分からなくて、5年間の累計ということで、5年間を全部足した予想の原価計算表ということでよろしいですか、7年から12年度までの。

1. 委員長（中谷政人） ご答弁できますか。

1. 下水道課長（仲谷倫由） ちょっと間違ったお答えをしたらいけませんので、改めて確認させていただきたい。

今、委員がおっしゃっている値としましては、15ページの収入の部の使用料対象収支の9億3千700万、こちらの数値でよろしいでしょうか。

1. 委員（松本直高） まず、この表の位置づけというのは、計算期間というのが7年度から12年度までということで、累計でこれは示されていると。営業収支の累計で示されているのか、平均で示されているのか、どういう数字を用いて、この5年間の計算をしているのか。ちょっとまずそこから説明していただきたいんです。

1. 下水道課長（仲谷倫由） すみません、ありがとうございます。

こちらにつきましては、5年分の平均を取らせていただいております。

1. 委員（松本直高） まず、それであれば、そうきちんと説明をしておいていただかないと、参考資料であったとしても、何のために、どういう位置づけで、この数字、表が出ているのかと

というのが、ちょっとよう分からんようなことになってしまいます。

ここで言うところの公費負担分というもののちょっと説明をしていただけますか。

1. 下水道課長（仲谷倫由） 公費負担分につきましては、一般会計からの繰入れ分とさせていただきます。

1. 委員（松本直高） すみません、ちょっと、それであれば書き方を変えてもらわないと、これじゃ、よく分かりません。例えば、ずっと我々がイメージしてしまうのが、公費負担分となると、例えば生活保護者世帯の水道料金が公費で負担されると。その類型かなというふうにも見えてしまうし、私は予想を、多分そうだなと思って見てはおったんですけども、この公費負担分というところ、全部基本的には公費で負担されている話だと思いますので、今のお話でしたら。ですので、ちょっと書き方を変えてもうたほうが分かりやすい表になるかとは思っております。

続いてでございますけれども、これを見ていると、5年間の平均で、もう一度聞かしてくださいね。営業収支の平均ということでもいいんですね。この下のところの1つ目の費用のところの小計の下の資本費ってあるんですけども、これは営業収支の中の資本的な支出ということで認識してよろしいですか。

1. 下水道課長（仲谷倫由） すみません、議員おっしゃるとおりでございます。営業費の中の資本費となっております。

1. 委員（松本直高） ということになりますと、営業収支だけで見ても、かなり原価、大きいという言い方をさせていただきますけれども、になってくるかと思うんです。

これは、ずっと積み上げていく費用として考えておられるのか。今後、この5年間、一応、今からの推計として上げておられますけれども、この費用も削減をしていく計画なんかはあるのでしょうか。お聞かせください。

1. 下水道課長（仲谷倫由） 費用につきましては、我々も削減のほうを努めてまいるところでございますけれども、やはり経費、どうしても物価のほうが上がってきておりますので、流域下水道等の維持管理の負担金が年々増えてきておりますので、やはりその辺で年々増加傾向という形になってございます。

1. 委員（松本直高） 経費削減策は特にないというご答弁のように理解をいたしました。それはそれで結構ですので、次の16ページの先ほどちょっとだけ触れておられた令和13年度からは営業収支マイナスですよというようなところの表、ここでも表で確認できるんですけども、この表については上下水道という認識でよろしいですか。

1. 下水道課長（仲谷倫由） すみません、先ほどの概要版と同じ資料となっております、こちらは下水道のみでの収支計画となっております。

1. 委員（松本直高） でしたら、この16ページの一番下の行ですね。資金の多分不足額というのが、えらい大きい額、不足になっているように思うんです。これは令和5年から令和17年までなんですけれども、これだけ大きな資金ショートについて、どのようにして補っておられるのか、お聞かせください。

1. 下水道課長（仲谷倫由） すみません、ちょっと表のほうの分かりにくくて申し訳ないんですけども、こちらの16ページの一番下の不足額につきましては、資本費、建設に係る不足額となっておりますので、こちらを補うために起債等、あと国庫補助金等を充ててございます。

1. 委員長（中谷政人） 間もなく正午となりますが、審査終了まで委員会を継続したいと思います。

1. 委員（松本直高） 非常に経営上厳しい。先ほども管の更新が迫っているというような状況であって、これだけのマイナスというのは、どうやってこれを建て直していくのかなど。どんどん経費も増えるだけのことでしか考えていない。経費削減もなければ、どんどんこれから平成13年には営業収支のほうもマイナスになってくるというところで、どう見てもこれは破綻寸前の企業の資金計画みたいなものを見せられているような感じがしてならないんです。これは抜本的にちょっと見直しをしていただかないと、非常にこの事業自体の存続というものに危惧を覚えるというわけなんです。懸念を感じてしまうわけなんです。

そういったところを、料金上げますよというのはあるんです。ここからでも見えるんですけども、それだけで、これだけの金額というのに対応できるのかどうなのか。ちょっと私も、議員以外にも数字を扱う仕事もやっていて、非常に不安を感じるんですけども、そちらのほうではどのような理事者として所見を持たれているのかお聞かせいただけますか。計画案でしょう。計画の案なんで、お願いします。破綻計画じゃないやろう、これ。

1. 下水道課長（仲谷倫由） お答えします。

議員ご心配のとおりでございます。非常に下水道事業、今後、厳しい状況となっております。

我々も、先ほども申しましたとおり、令和13年度からは非常に厳しい状況となっておりますので、それまでには早いうちに収支のバランスを見ながら、使用料単価が適正であるかというところの検証もしっかりしてまいりたいと思っております。

1. 委員（松本直高） 皆さん、これ、事業を運営していくお立場の方々なんですね。批評家みたいなことではなくて、具体的に、この計画としてどう。これから危機的な状況にあるというのは、今、ご説明いただいたところで、私も数字を見ても、それとなく、もっとこれは多分、実際にはひどくなるんやろうなというふうには、見ているところなんですけれども、感じる場所なんです。

計画ということで出していただくのであれば、ちょっと抜本的な対策まではどうか分かりませんが、もう少し対処療法的な対策も含めて、この計画というのを出してもらわないと、対策が料金をちょっと上げないといけないかも分かりませんというようなことだけでは、非常に苦しい。計画として、本当にこの計画は成り立つのかという不安がありますので、そこは今、パブコメをというところであれば、この意見もちょっと聞いて、もう一遍ちょっとご検討いただきたいなと思うところがございます。非常に議員としても不安を感じた計画でございます。

最後に1点だけ。

この17ページの収益的収支分のところのうち基準外繰入金というのが、令和8年まで結構な額が入っているんです。これは基準外ということでございますので、何らの問題もないのかというところ、その確認だけをさせていただきます。これはまだ8年度という来年度の方も入っていますので、7年度、進行期でございますけれども、これと来年度もありますので、ここをしっかりと確認しとかなあかんと思っております。ご説明よろしく申し上げます。

1. 下水道課長（仲谷倫由） お答えします。

こちらの17ページの基準外繰入金につきましては、基本料金の免除に係る費用の補填

を一般会計のほうからしていただく分が、基準外繰入れという形でこちらのほうに数字のほうを入れさせていただいてございます。

1. 委員（松本直高） すみません、私が聞きたかったのは、何でというのはもちろんおっしゃっていただいて分かったんですが、問題ないんですかというところ、基準外ということですね。それを確認したいということで質問させていただいた次第なんです。

1. 下水道課長（仲谷倫由） 非常に、こちら説明がなく、ちょっと分かりにくくて申し訳ございません。

基準内というのは、議員もご存じのとおり、総務省からの繰入れ基準の充てる値をこちらの基準内とさせていただいておりますので、総務省の繰入れ基準から外れている、例えば減免しているような、そういう値につきましては基準外にさせていただいてございます。

1. 委員（松本直高） これは問題ないというご答弁やったとは思いますが、例えば、国庫補助金を申請するに当たって、この基準外繰入金がこれだけあったとして、それでも何もその問題はないという理解でよろしいですか。

1. 下水道課長（仲谷倫由） お答えします。

こちらの基準外繰入金があることによりまして、議員がおっしゃったような補助金等々の申請につきましては、今のところ影響はございません。

1. 委員（松本直高） 以上です。ありがとうございました。

1. 委員長（中谷政人） ほかに質疑等ありましたらどうぞ。

1. 委員（野口陽輔） ちょっと私、頭が悪いので、難しいことを言われてもよく分かんないんですけども、松本委員の話を聞いていたら、今回の下水道事業経営戦略と書いてある、タイトルが、経営戦略と。中を見てみますと、社会的背景で非常に厳しい経営に至りますよと、令和17年度に至って。そのために水道料金を上げなきゃあきませんなどということを行うための資料ですか。

何を言いたいかわからないわ、これ。要は、これから厳しくなりますよ。使用料も減ります。人口も減ります。だから料金を上げなきゃあきませんねという経営戦略をこれは言いたいための資料なのか。難しいことを言われても分かんないので、というふうに僕は受け取ったんですが、間違いはないですか。

1. 理事兼水道局長（藤井大史） すみません、今後10年間というところの経営の中でございます。

この10年間、少なくとも5年間としては、経営としてはそんなに悪くない経営がされていますというところがございます。その後の5年間というのは、やっぱり注視をしていかないといけない。その注視をしていく中であって、その指針というのは、5番と7番に示させていただいた数字でございまして、うちのほうでいきますと、経営の比率、これが100以上というところ、それと経費回収率も100以上、それと資金残高5億円を切らない。これで監視をしながら毎年を見ていただく。この10年の中にあっては、いけるというところでの経営戦略という出し方でございます。5年ごとの見直しというのが当然ありますので、その5年間でというところはあります。

若干、仲谷の説明の中で、次の5年間は人口の減りがやっぱり大きいので、マイナスになっていくというところがある。というところが目に見えてくる。そこが本当に人口の推移どおり下がるのかというところが、一番のポイントにはなってくるのかなと。

ただ、この戦略の中で、経営者側としてはどうしていくのといいますが、この示した数

値がキープできていけるのかを毎年見ていくというところでございます。

なので、今現状、すぐに赤に行くのというところではないというお示しをさせていただいているつもりなんです。

1. 委員長（中谷政人） ほかに質疑等はございますか。

1. 副委員長（藤田菜里） 老朽化率が他市よりも高いということで、他市が平均3%、うちが令和7年度の数字でいうと11%ということで、ストックマネジメント計画も立てられていたと思うんですけども、ちょっとその記憶が定かじゃないんですけども、この老朽化率を他市水準に合わせていく流れに、一気には無理にしても、あれですよ、100年計画か何かだったですか。なので、一気には無理だとは思いますが、それも加味して、今の収支比率というか、経営バランスが維持できるという数字が出ているんだとは、当然前提としては思うんですけども、八潮市のあいう事故とか、今後、よりそういう事故が多発する中で、老朽化対策というのは年を追うごとに本当に喫緊の課題になって、この予測どおりにいくかといったら、そうじゃないのかなと考えると、ここで示されている数字というのは、本当にこのとおりにいくのかなというふうに、ちょっと思うんですけども、その老朽化対策に係る経費と経営というところでは、どういうふうに理解をこちらとしてはしておけばいいのでしょうか。

1. 下水道課長（仲谷倫由） お答えします。

先ほどもご質問をいただいておりますが、経営に関するところの純利益につきましては営業費のところになってございますので、こちらにつきましては、先ほど申しました使用料等の減少で影響が出てございまして、委員おっしゃっている改築に係る費用につきましては、資本的な収支となつてございますので、こちらの純利益には直接的な影響は少ないんでございますけれども、今後のストックマネジメント計画の収支につきましては、もちろんこちらの収支計画のほうにも反映させていただいております。

1. 委員長（中谷政人） ほかに質疑等はございませんか。

（発言する者なし）

1. 委員長（中谷政人） 大丈夫ですか。ないようですので、本件についての質疑は終了します。

次回は、パブコメ実施後に調査を行いたいと思います。

次に、交野市議会委員会条例第2条に規定されている本委員会の所管事項については、行政計画等を含め、閉会中に事務調査を実施したいと思いますが、ご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

1. 委員長（中谷政人） ご異議なしと認め、本委員会の閉会中所管事務調査の申出を議長に提出したいと思います。

この際、その他として何かありましたらどうぞ。

1. 委員（松本直高） すみません、さっきのことはもういいんですけども、今後こういう数字を扱うような何か計画とかを戦略とか立てる場合、ぜひとも私は、皆さんだけで考えることなく、公認会計士、中小企業診断士というような経営コンサルタントができる人のご意見もちょっと伺っていただいて、これが本当に皆さんが意図しているような資料となっているのかどうかということを一巡確認してもうたほうが、議会に出してもらった資料としてはいいんじゃないかなと思いますので、さっきの経営戦略にかかわらずということでございます。これから値上げをしていかなあかんということ、上下水ともにあるわけですから、

そういうこともひとつご検討いただけましたら幸いかなと思っております。よろしくお願いいたします。

以上です。

1. 委員長（中谷政人） その他として何かございましたらどうぞ。

（発言する者なし）

1. 委員長（中谷政人） ほかにないようでしたら、以上で都市環境福祉常任委員会を散会します。どうもお疲れさまでした。

（午後 0時13分 散会）

会議の顛末を記載し、その相違ないことを証するためにここに署名する。

委員長
